



JICA-SATREPS プロジェクト
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to bedside system”構築と
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



プロジェクト成果を総括する第4回合同調整委員会（JCC）開催
（2024年1月18日）

2019年4月に開始したプロジェクトは、5年間のプロジェクト期間全体の最終段階に差し掛かりました。JICA プロジェクトの合同調整委員会（JCC：Joint Coordination Committee）もこれで第4回目で最後のJCCとなります。今回のJCCではこれまでと同様のプロジェクトの個々活動の進捗・成果の議論に加えて、プロジェクト全体の成果と、所期の目標に照らし合わせたプロジェクトの評価についての確認・議論がされました。

プロジェクトのメインカウンターパートである国立熱帯病病院（NHTD）、ハノイ医科大学（HNU）、保健省 HIV/AIDS 予防局（VAAC）などのベトナム側参加者、そして日本側からは JICA 本部・ベトナム事務所、プロジェクト実施機関でもある国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター（NIGM-ACC）や熊本大学、そして SATREPS プロジェクトの共同実施機関でもある日本医療研究開発機構（AMED）専門家の皆様にも参加いただきました。また駐ベトナム日本国大使館や JICA から保健省に派遣されている保健省政策アドバイザーからも参加頂き、関係者一堂会すことができました。会議は対面とオンライン参加と併せての、ハイブリッド形式で実施しました。



プロジェクト最後となる JCC は、現地ハノイからの参加とオンラインとのハイブリッド形式。

プロジェクト目標に向けた一定の成果を共有しつつ、残りの課題に向けてラストスパートです。

ベトナム側プロジェクトコーディネーターである NHTD の Giang 医師と HNU の Giang 准教授、熊本大学・滝口教授からの各成果の進捗報告後、プロジェクトリーダーである岡慎一・NIGM-ACC 名誉センター長からプロジェクト全体としての成果と、JICA 事業評価で基準となる DAC 評価 6 基準に沿った事業評価を報告しました。その後質疑応答では、AMED 専門家とはプロジェクトの個々の研究成果について専門的な議論が交わされ



JICA-SATREPS プロジェクト
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



ると共に、プロジェクト評価に対しては、新型コロナウイルス感染症流行によるプロジェクト実施が困難な時期も踏まえ、所定のプロジェクト予算と期間内で成果を挙げた点に対し高い評価を頂くことができました。特に、研究活動と並行して行われた人材育成に関する努力では、ベトナムでの短期研修に加え、NHTD、HMU それぞれから博士課程修了学生を育成することができたことなど、今後の持続的な効果にも期待できる成果が評価されました。

これからベトナムのお正月であるテト（旧正月：2024年は2月10日）を迎え、プロジェクト終了まであと2ヶ月余りですが、残る課題と活動に対し確実に対応し、所期の目標を達成してプロジェクト完了できるよう、引き続き努力していきたいと思っております。